

10/23(土) まいび! 倫理号です。朝晩 肌寒くなりまして。仁平エサ対策もしてあげない
とイヤな今日この頃。全てに決断して行動の時は 後から気がついて対
しらり 知るのは 実行出来ず 後悔 する事 多い 同様に 見えない パワ-カセ!
幸せ 運ぶ アホ-鳥

2021. 10. 23~10. 29

今週の

倫理

10月のテーマ | 決断をする

1252号

「人生は日々『決断』の連続である」と言っても過言ではありません。

即答しなければならぬ場合、熟慮する時間があるケースなどそれぞれでしょう。今週は相応しい判断を下すための、日頃からの心がけたいことを考えていきます。

倫理経営指導の現場では、時折「決断ができていない」という人がいます。その際、時間に猶予がある場合、講師から「目覚めたら間髪入れずに飛び起きる実践を継続してはいかがでしょう」といった新しい生活習慣を試みることを提示される場合があります。すると、「その実践によって人生が開けた」という人も少なくありません。なぜでしょう。

それは、自然のリズムに則った暮らしに徹していると、その生活に見合った答えが自ずと導き出されるからです。

自然界は、人間の意志や手の加わらない、ありのままの形で存在しています。

その中にいる我々人間もまた、自然のうちの一部分です。朝になれば働き出す、寒ければ防寒を講じ、必要な栄養を補給し、夜は休みます。みな自然の営みです。そうした中で、目覚めたらサツと動き出す「朝起き」と呼ばれる実践は最も自然のリズムに沿う行為なのです。「目覚め」という気づきは自分の力で得るのではなく、自然から与えられるものに同調する行為だからです。動物を観察すれば、寝床でぐずぐずしているのは人間だけということがわかります。自然界では、朝がくれば多くの動植物が



おのずと答えが出る 土壌づくりのために

活動を始めるように、大自然のメッセージとしての目覚め(気づき)を一度で受け切る決断を心がけたいものです。

倫理運動の創始者・丸山敏雄は自然な暮らし方について次のように著しました。

動物の社会には、その仲間の一匹が幸福で、他のものが不幸だとかの区別はありませんが、人はわがままをせずに、正しく暮せば楽にすごせるものを、勝手気ままを出すので、不幸になるようになっておられます。いわば苦難は、そうしたわがままをした(他の動物のもっていない不自然な心を出し無理な行ないをした)時、自然に出てくるようになっていくのです。(中略)このわがままを取り去った暮らし方、これこそ新しい絶対倫理であります。これがかえって一番自然な、自由な暮らし方です。(『万人幸福の葉』)

ただし、自然は時に厳しい姿を見せることもあり、自然災害など受け入れ難い出来事も起きます。自然に任せていけばすべて上手くいくと安住するのではなく、決断の責任を自分で負う覚悟も必要でしょう。

最近では職業も働き方も多様化し、太陽の動きに合わせた生活習慣を送るのが困難な人もいるかもしれません。それでも、何時でも目覚めたらすぐ起きる、気づいたらすぐ行なう、喜んで働き、朗らかに生きるという選択は可能です。

人生の岐路に立たされた時、強い意志を働かせて決断しなければいけない時ほど、自然の力を味方につけたいものです。